

松下幸之助記念財団 研究助成

研究報告

(MS Word データ送信)

【氏名】 小林 誠

【所属】 (助成決定時) 首都大学東京大学院

【研究題目】 気候変動に「沈む国」ツバルにおける土地の造成と社会秩序の再編

【研究の目的】 (400字程度)

2015年にニュージーランド政府の援助により、ツバルの首都フナフティ環礁の海岸の養浜と窪地の埋め立てが行われ、新たに広大な土地が造成された。これは、人口が集中し、土地不足が深刻なフナフティ環礁ではもっぱら歓迎の声が聞かれたが、新たな不満をも喚起していた。フナフティ環礁の人々は地元のみが所有する権利を持つ。そのため、離島民の多くは外洋側の海岸付近や湿地帯に担っている窪地周辺など極めて悪条件の土地をフナフティ島民から借り受け、そこに家を建てて暮らしてきた。ところが、海岸の養浜と窪地の埋め立てによって、これまで離島民が借り受けていた土地が極めて良好な居住場所へと変わると、今度はフナフティ島民の間に離島民に対する不満がみられるようになった。本研究では、この土地の造成の文化・社会的な影響を明らかにすることを目的とする。具体的には、新たな土地の出現を契機に起こったフナフティ島民と離島民のポリティクスを検討し、結果的に社会秩序がどのように再編されるのかを分析する。

【研究の内容・方法】 (800字程度)

上記の目的を達成するために、文献資料の分析と現地調査として文化人類学的なフィールドワークを実施した。文献資料の分析ではオセアニアの土地制度に関する人類学的な研究動向ならびに気候変動への適応策に関する現状を検討した。また、ツバルにおける海面上昇の被害、適応策、ニュージーランドの援助による養浜と窪地の埋め立ての経緯、実施範囲、工事の様子、造成地の状況に関する情報を入手した。

フナフティ環礁にて行なった文化人類学的なフィールドワークでは、土地の造成の影響を明らかにするために、フナフティ島民とナヌメア島民のそれぞれから聞き取り調査を実施した。まず、フナフティ島民の中でも、年長者、島政府関係者、若者・女性団体関係者などから聞き取りを行い、意見交換をした。次に、造成地を保有する20世帯への集中的な聞き取りをし、造成前と造成後の土地利用の変化と、居住する離島民との関係性についての具体的な情報を収集した。

他方で、離島民に関しては、離島コミュニティの代表などから聞き取りをし、意見交換をした。また、造成地付近に住む20世帯への集中的な聞き取り調査を実施し、造成前と造成後の土地利用の変化と、所有者であるフナフティ島民との関係性の変化についてについての具体的な情報を収集した。ナヌメアという離島出身者がかつて湿地帯だった窪地周辺に集住しており、今回対象としている土地の造成によって居住条件が劇的に変化していることから、離島民の中でもナヌメア島民を中心に調査を進めた。

こうして得た調査データを基に、土地の造成を契機に起こったフナフティ島民と離島民の関係性の変化を双方の視点から明らかにし、土地をめぐるポリティクスと社会秩序の再編について分析した。

【結論・考察】 (400字程度)

以上の調査研究の結果、次のことが明らかになった。

土地所有者であるフナフティ島民の中には、造成によって居住地として好条件となった場所に住む離島民に対して、立ち退きを要請し、あるいはそれを計画している者が複数存在していたことがわかった。人口が集中し、土地不足が深刻なフナフティ環礁では、貸家の需要が高いため、そうしたフナフティ島民は離島民を立ち退かせて、貸家を建設することを計画していた。ただし、すべてのフナフティ島民が離島民に立ち退きを要請していたわけではなかった。

そもそも、土地を持たない離島民がナヌメア環礁に住むためには、フナフティ島民の許可を得る必要がある。そのために、多くの離島民は親族関係にあるフナフティ島民から許可をもらい、その場所に家を建設して住んでいた。ところが、一度、家を建ててしまうと、そこには親族関係を伝えて多くの人々が集まってくる。そして、時間が経つにつれ、土地所有者との関係性が薄い、あるいは関係性を知らない者が居住するケースが増加してくる。こうした人々が、土地の造成を契機に土地所有者から立ち退きを迫られる対象となっていた。他方で、離島民の中には、婚姻、義兄弟・義姉妹の契りなどを通して、フナフティ島民との親族的な関係性を維持・強化している者もいた。彼らは土地所有者と親密な関係性を構築しており、土地の造成後も居住し続けることが快諾されていた。

土地の造成はフナフティ島民と離島民との関係性を改めて問われる契機となっていた。そして、その関係性は親族関係的な紐帯の有無や強弱といったツバルの伝統的な価値観に基づきながら、再編されているといえよう。本研究では、新たな土地の出現に起因するポリティクスが、いかに親族関係の網の目の中に位置付けられることで秩序化されて、再編されてきたのかを明らかにした。